

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密又は防護上の観点から  
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-501 改2
提出年月日	平成30年8月8日

日本原子力発電株式会社  
東海第二発電所 工事計画審査資料  
放射性廃棄物の廃棄施設  
気体、液体又は固体廃棄物処理設備  
固体廃棄物処理系  
(固体廃棄物処理系)

(本文)

## 放射性廃棄物の廃棄施設

### 2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

#### 2.3 固体廃棄物処理系

##### 2.3.1 固体廃棄物処理系

###### (1) 熱交換器

- a. 蒸気加熱器
- b. タンクベント冷却器

###### (2) ポンプ

- a. 廃液中和スラッジ受ポンプ
- b. ミキサー洗浄ポンプ

###### (4) 容器

- a. 廃液フィルタ逆洗水受タンク
- b. 床ドレンフィルタ逆洗水受タンク
- c. 原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器逆洗水受タンク
- d. 廃液スラッジ貯蔵タンク
- e. 床ドレンスラッジ貯蔵タンク
- f. 濃縮廃液貯蔵タンク
- g. 使用済樹脂貯蔵タンク
- h. 廃液中和スラッジ受タンク
- i. 濃縮廃液計量タンク
- j. ミキサー洗浄タンクB
- k. バッチタンク
- l. スラッジ計量ホッパー
- m. チャージホッパー
- n. 苛性溶液タンク
- o. セメントサイロ
- p. セメント計量ホッパー

###### (10) 主配管

- (14) 減容・固化設備に係る焼却装置，熔融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち（1）から（13）までに掲げるもの以外の主要機器

- a. 減容機
- b. 遠心分離機
- c. スラッジコンベヤー
- d. アウトドラムミキサー
- e. セメントコンベヤー

- f. ドラムコンベヤー
- g. ミキサー洗浄タンクA

## 2.3 固体廃棄物処理系

### 2.3.1 固体廃棄物処理系

- (1) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

			変更前	変更後		
名 称			蒸気加熱器	変更なし		
種 類	—		たて置円筒形*1			
容量（設計熱交換量）*2		kJ/回分/個	<input type="text"/> (2.56×10 <sup>5</sup> *3, *4)			
管側	最高使用圧力	MPa	0.96*3			
	最高使用温度	℃	183			
胴側	最高使用圧力	MPa	0.96*3			
	最高使用温度	℃	183			
伝 熱 面 積		m <sup>2</sup> /個	<input type="text"/> (2.58*4)			
主要寸法	管側	伝熱管外径	mm		34.0*4, *5	
		伝熱管厚さ	mm		<input type="text"/> (3.4*4, *5)	
		蒸気入口管台外径	mm		34.0*4, *5	
		蒸気入口管台厚さ	mm		<input type="text"/> (3.4*4, *5)	
	胴側	胴内径*6	mm		950*4	
		胴板厚さ	mm		<input type="text"/> (10*4, *7)	
		鏡板厚さ	mm		<input type="text"/> (10*4, *7)	
		鏡板の形状に係る寸法	mm		950*4, *5 (鏡板長径)	
			mm		237.5*4, *5 (鏡板短径の2分の1)	
		側	水入口管台外径		mm	60.5*4, *5
			水入口管台厚さ		mm	<input type="text"/> (5.5*4, *5)
			水出口管台外径		mm	60.5*4, *5
	水出口管台厚さ		mm		<input type="text"/> (5.5*4, *5)	
	フ ラ ン ジ 厚 さ		mm	<input type="text"/> (79*4, *5)		
	高 さ		mm	1643*4		
	材 料	管側	伝 熱 管	—	SUS304TP	
胴側		胴 板*8	—	SM41A		
		鏡 板	—	SM41A*5		
フ ラ ン ジ		—	S25C*5			
個 数		—	1			

- 注記
- \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形コイル式」と記載。
  - \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱負荷」と記載。
  - \*3：S I 単位に換算したもの。
  - \*4：公称値を示す。
  - \*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 蒸気加熱器」による。
  - \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
  - \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 蒸気加熱器」による。
  - \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
  - \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

		変更前		変更後	
名 称		タンクベント冷却器		変更なし	
種 類	—	たて置直管式*1			
容量（設計熱交換量）*2		kW/個	<input type="text"/> (69.3*3, *4)		
管 側	最高使用圧力	kPa	(負圧) 5		
	最高使用温度	℃	65		
胴 側	最高使用圧力	MPa	0.86		
	最高使用温度	℃	65		
伝 熱 面 積		m <sup>2</sup> /個	<input type="text"/> (16.57*3)		
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径*5	mm		350*3
		胴 板 厚 さ*6	mm		<input type="text"/> (10*3)
		鏡 板 厚 さ*8	mm		<input type="text"/> (10*3)
		鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		350.0*3, *7 (鏡板長径)
			mm		87.5*3, *7 (鏡板短径の2分の1)
		フ ラ ン ジ 厚 さ	mm		<input type="text"/> (36.0*3, *7)
		ガ ス 入 口 管 台 外 径	mm		216.3*3, *9
		ガ ス 入 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (8.2*3, *9)	
		ガ ス 出 口 管 台 外 径	mm	267.4*3, *9	
ガ ス 出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (15.1*3, *9)			

(続き)

				変更前	変更後
主要寸法	胴側	胴内径 <sup>*10</sup>	mm	350 <sup>*3</sup>	変更なし
		胴板厚さ <sup>*11</sup>	mm	<input type="text"/> (10 <sup>*3</sup> )	
		水入口管台外径	mm	60.5 <sup>*3, *9</sup>	
		水入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (8.7 <sup>*3, *9</sup> )	
	管板厚さ	mm	<input type="text"/> (25 <sup>*3</sup> )		
	伝熱管外径	mm	25.4 <sup>*3</sup>		
	伝熱管厚さ	mm	<input type="text"/> (2.6 <sup>*3</sup> )		
	高さ <sup>*12</sup>	mm	3568 <sup>*3</sup>		
材料	管側	胴板	—	SM400A	
		鏡板	—	SM400A	
	胴側	胴板	—	SM400A	
	管板	—	S25C		
	伝熱管	—	SUS304TB		
	フランジ	—	S25C <sup>*7</sup>		
個数	—	1			

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形固定管板式」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量」と記載。

\*3：公称値を示す。

\*4：S I 単位に換算したもの。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴部厚さ」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年9月17日付け発管業発第118号にて届け出した工事計画の添付書類「2 強度計算書」のうち、「2-1 タンクベント冷却器強度計算書」による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載。

\*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体厚さ」と記載。

\*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

- (2) ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力（真空ポンプにあっては到達真空度），最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

			変更前	変更後	
名 称			廃液中和スラッジ受ポンプ		
ポンプ	種 類	—	うず巻形*1		
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	<input type="text"/>	(11.9*3)	
	揚 程*4	m	<input type="text"/>	(22*3)	
	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.33*5		
	最 高 使 用 温 度	℃	65*5		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	50*3, *6	
		吐 出 口 径	mm	50*3, *6	
		た て	mm	110*3, *6	
		横	mm	485*3, *6	
		高 さ	mm	370*3, *6	
材 料	ケ ー シ ン グ*7	—	SCS14		
個 数	—	1			
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*8		
	出 力	kW/個	3.7		
	個 数	—	1		

撤去

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻ポンプ」と記載。  
 \*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。  
 \*3：公称値を示す。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。  
 \*5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち，「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。  
 \*6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-34図 ポンプ外形図 組立断面図（横軸型ポンプその10）」による。  
 \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。  
 \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。



			変更前	変更後	
名 称			ミキサー洗浄ポンプ		
ポンプ	種類	—	うず巻形*1		
	容量	m <sup>3</sup> /h/個	<input type="text"/>	(3.6*3)	
	揚程*4	m	<input type="text"/>	(210*3)	
	最高使用圧力	MPa	2.74*5		
	最高使用温度	℃	65*5		
	主要寸法	吸込口径	mm	40*3, *6	
		吐出口径	mm	40*3, *6	
		たて	mm	170*3, *6	
		横	mm	1135*3, *6	
		高さ	mm	470*3, *6	
材料	ケーシング*7	—	FC25		
個数	—	1			
原動機	種類	—	誘導電動機*8		
	出力	kW/個	15		
	個数	—	1		

撤去

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸多段うず巻ポンプ」と記載。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：公称値を示す。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。

\*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-36図 ポンプ外形図 組立断面図（横軸型ポンプその12）」による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

		変更前	変更後		
名 称		廃液フィルタ逆洗水受タンク			
種 類	—	たて置円筒形 <sup>*1</sup>			
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (17.0 <sup>*2</sup> )	変更なし		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭 <sup>*3</sup>			
最 高 使 用 温 度	℃	80			
主 要 寸 法	胴 内 径 <sup>*4</sup>	mm		2000 <sup>*2</sup>	
	胴 板 厚 さ <sup>*5</sup>	mm		<input type="text"/> (6 <sup>*2</sup> )	
	鏡 板 厚 さ <sup>*7</sup>	mm		<input type="text"/> (6 <sup>*2</sup> )	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		2000 <sup>*2, *8</sup> (鏡板中央部内半径)	
				200 <sup>*2, *8</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm		4.5 <sup>*2, *9</sup>	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm		60.5 <sup>*2, *6</sup>	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (3.9 <sup>*2, *6</sup> )	
高 さ	mm	6798.5 <sup>*2, *10</sup>			
材 料	胴 板 <sup>*11</sup>	—		SM41A <sup>*12</sup>	
	鏡 板	—		SM41A <sup>*12</sup>	
個 数	—	2			
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-2-5 廃液フィルタ逆洗水受タンク」による。

- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- \*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-5 廃液フィルタ逆洗水受タンク」による。
- \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 廃液フィルタ逆洗水受タンク構造図」による。
- \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「6400」と記載。  
記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 廃液フィルタ逆洗水受タンク構造図」による。
- \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称			床ドレンフィルタ 逆洗水受タンク	変更なし
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/> (17.0*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		80	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	2000*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2000*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			200*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 厚 さ	mm	4.5*2, *8	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	60.5*2, *6	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (3.9*2, *6)	
高 さ	mm	6798.5*2, *9		
材 料	胴 板*10	—	SM41A*11	
	鏡 板	—	SM41A*11	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 \*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2: 公称値を示す。

\*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*8: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 床ドレンフィルタ逆洗水受タンク構造図」による。

- \*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「6400」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 床ドレンフィルタ逆洗水受タンク構造図」による。
- \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水受タンク <sup>*11</sup>	変更なし
種 類	—		たて置円筒形 <sup>*2</sup>	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/> (25 <sup>*3</sup> )	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 <sup>*4</sup>	
最 高 使 用 温 度	℃		94	
主 要 寸 法	胴 内 径 <sup>*5</sup>	mm	2500 <sup>*3</sup>	
	胴 板 厚 さ <sup>*6</sup>	mm	<input type="text"/> (9 <sup>*3</sup> )	
	鏡 板 厚 さ <sup>*8</sup>	mm	<input type="text"/> (9 <sup>*3</sup> )	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2500.0 <sup>*3, *7</sup> (鏡板中央部内半径)	
			250.0 <sup>*3, *7</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 厚 さ	mm	9 <sup>*3, *9</sup>	
	ドレン出口管台外径	mm	80 <sup>*3, *9</sup>	
	ドレン出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (9.5 <sup>*3, *7</sup> )	
高 さ	mm	5980 <sup>*3, *10</sup>		
材 料	胴 板	—	SUS304L	
	鏡 板	—	SUS304L	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 \*1：記載の適正化を行う。原子炉冷却材浄化系から固体廃棄物処理系に整理。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

\*3：公称値を示す。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建建発第98号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2-4 フィルタ脱塩器逆洗水受タンクの規格計算書」による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には、スカート部から平板上端部までの高さである「6590」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩器逆洗水受タンク」と記載。

		変更前		変更後	
名称		廃液スラッジ貯蔵タンク		変更なし	
種類	類	たて置円筒形*1			
容量	m <sup>3</sup> /個	□ (161*2)			
最高使用圧力	MPa	静水頭*3			
最高使用温度	℃	65			
主要寸法	胴内径*4	mm	5200*2		
	胴板厚さ*5	mm	□ (10*2)		
	鏡板厚さ*7	mm	□ (12*2)		
	鏡板の形状に 係る寸法	mm	5200*2, *8 (鏡板中央部内半径)		
			520*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)		
	平板(屋根)厚さ	mm	4.5*2, *8		
	出口及びドレン 管台外径	mm	48.6*2, *6		
	出口及びドレン 管台厚さ	mm	□ (5.1*2, *6)		
	入口管台外径	mm	114.3*2, *6		
	入口管台厚さ	mm	6.0*2, *6		
高さ	mm	8825.5*2, *9			
材料	胴板*10	—	SM41A*11		
	鏡板	—	SM41A*11		
個数	—	2			
漏えい防止の ための制御方法	—	—			

注記 \*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形(スカート支持)」と記載。

\*2: 公称値を示す。

\*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。



- \*8 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 廃液スラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- \*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 廃液スラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称		床ドレンスラッジ貯蔵タンク		
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m <sup>3</sup> /個	□ (110*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	洞 内 径*4	mm	4400*2	
	洞 板 厚 さ*5	mm	□ (8*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	□ (10*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4400*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			440*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4.5*2, *8	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	□ (5.1*2, *6)	
	入 口 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	3.7*2, *6	
高 さ	mm	8268.5*2, *9		
材 料	洞 板*10	—	SM41A*11	
	鏡 板	—	SM41A*11	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

変更なし

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。  
 \*2：公称値を示す。  
 \*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「洞板厚」と記載。  
 \*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- \*8 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-19図 床ドレンスラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- \*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7400」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-19図 床ドレンスラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後	
名 称		濃縮廃液貯蔵タンク		変更なし	
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/>	(94.6*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3			
最 高 使 用 温 度	℃	120			
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	4000*2		
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/>		(18*2)
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/>		(21*2)
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4000*2, *6 (鏡板中央部内半径)		
			400*2, *6 (鏡板隅の丸み半径)		
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	9*2, *8		
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	89.1*2, *9		
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/>		(5.5*2, *9)
	入 口 管 台 外 径	mm	60.5*2, *10		
	入 口 管 台 厚 さ	mm	3.9*2, *10		
高 さ	mm	8606*2, *11			
材 料	胴 板*12	—	SM41A*13		
	鏡 板	—	SM41A*13		
個 数	—	3			
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—			

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-7 濃縮廃液貯蔵タンク」による。

- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- \*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 濃縮廃液貯蔵タンク構造図」による。
- \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-7 濃縮廃液貯蔵タンク」による。
- \*10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 濃縮廃液貯蔵タンク構造図」による。
- \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変更前	変更後
名 称		使用済樹脂貯蔵タンク		
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/>	(132.5*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	4800*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/>	(8*2)
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/>	(12*2)
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4800*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			480*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4*2, *9	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(3.7*2, *6)
高 さ	mm	8547*2, *10		
材 料	胴 板*11	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-8 使用済樹脂貯蔵タンク」による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- \*8 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-8 使用済樹脂貯蔵タンク」による。
- \*9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-24図 使用済樹脂貯蔵タンク構造図」による。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7600」と記載。  
記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-24図 使用済樹脂貯蔵タンク構造図」による。
- \*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変更前	変更後
名 称			廃液中和スラッジ受タンク	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /個		[ ] (3.8*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	1600*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	[ ] (6*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	[ ] (8*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1600*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			160*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4*2, *9	
	高 さ	mm	2422*2, *10	
材 料	胴 板*11	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法			—	

撤去

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 廃液中和スラッジ受タンク」による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 廃液中和スラッジ受タンク」による。



- \*9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 廃液中和スラッジ受タンク構造図」による。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「2100」と記載。  
記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 廃液中和スラッジ受タンク構造図」による。
- \*11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変更前	変更後
名 称			濃縮廃液計量タンク	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/>	(0.32*2)
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		120	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	700*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/>	(5*2)
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/>	(5*2)
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	700*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			70*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4*2, *8	
	出 口 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(3.7*2, *6)
	入 口 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	3.7*2, *6	
高 さ	mm	1096.5*2, *9		
材 料	胴 板*10	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 濃縮廃液計量タンク構造図」による。

- \*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「950」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 濃縮廃液計量タンク構造図」による。
- \*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変更前	変更後
名 称			ミキサー洗浄タンク B	撤去
種 類	—		たて置角形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/> (0.6*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	た て*4	mm	912*2	
	横 *5	mm	1812*2	
	胴 板 厚 さ*6	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	底 板 厚 さ*6	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	9*2, *7	
	高 さ	mm	565*2	
材 料	胴 板*8	—	SM41A	
	底 板*8	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の ため の 制 御 方 法	—		—	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「角形（底置）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「巾」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

			変更前	変更後
名 称			バッチタンク	撤去
種 類	—		たて置角形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">          </span> (0.21*2, *3)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*4	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	た て	mm	580*2	
	横	mm	580*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">          </span> (6*2)	
	底 板 厚 さ*5	mm	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">          </span> (6*2)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ*5	mm	6*2	
	高 さ	mm	900*2	
材 料	胴 板*7	—	SM41A	
	底 板*7	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の ため の 制 御 方 法	—		—	

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「角形」と記載。
- \*2：公称値を示す。
- \*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2100」と記載。
- \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。
- \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。
- \*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		スラッジ計量ホッパー	撤去	
種 類	—	たて置円すい形* <sup>1</sup>		
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (0.3* <sup>2</sup> )		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭* <sup>3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	胴 内 径* <sup>4</sup>	mm		850* <sup>2</sup>
	胴 板 厚 さ* <sup>5</sup>	mm		<input type="text"/> (5* <sup>2</sup> )
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm		5* <sup>2</sup> , * <sup>7</sup>
	高 さ	mm		1400* <sup>2</sup>
材 料	胴 板* <sup>8</sup>	—		SUS304
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円すい形」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 スラッジ計量ホッパー構造図 (D506)」による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		チャージホッパー	撤去	
種 類	—	四角すいたて形 <sup>*1</sup>		
容 量	m <sup>3</sup> /個	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span> (0.5 <sup>*2</sup> )		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭 <sup>*3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	た て ( 内 寸 法 ) <sup>*4</sup>	mm		1054 <sup>*2</sup>
	横 ( 内 寸 法 ) <sup>*5</sup>	mm		714 <sup>*2</sup>
	胴 板 厚 さ <sup>*6</sup>	mm		<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span> (8 <sup>*2</sup> )
	高 さ	mm		2000 <sup>*2</sup>
材 料	胴 板 <sup>*8</sup>	—		SUS304
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「四角スイ縦形」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

\*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 アウトドラムミキサー構造図（その2）（チャージホッパー構造図）」による。

			変更前	変更後
名 称			苛性溶液タンク	撤去
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m <sup>3</sup> /個		<input type="text"/> (0.19*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	600*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	600*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			60*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4.5*2, *8	
高 さ	mm	998*2, *9		
材 料	胴 板*10	—	SM41A	
	鏡 板	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

\*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 苛性溶液タンク構造図」による。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「870」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 苛性溶液タンク構造図」による。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。



		変更前	変更後	
名 称		セメントサイロ	撤去	
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (14.5*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	洞 内 径*4	mm		2700*2
	洞 板 厚 さ*5	mm		<input type="text"/> (6*2)
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm		6*2, *6
	高 さ*7	mm		4650*2, *8
材 料	洞 板*9	—		SM41A
個 数	—	1		
漏えい防止のための制御方法		—	—	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には、サポートからセメントサイロ頂部までの高さである「6600」と記載。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届出した工事計画の添付図面「第3-14図 セメントサイロ構造図（D704）」による。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

\*10：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届出した工事計画の添付図面「第3-14図 セメントサイロ構造図（D704）」による。

		変更前		変更後
名 称		セメント計量ホッパー		撤去
種 類	—	たて置円すい形*1		
容 量	m <sup>3</sup> /個	[ ] (0.7*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	洞 内 径*4	mm	1100*2	
	洞 板 厚 さ*5	mm	[ ] (6*2)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	6*2, *7	
	高 さ	mm	1800*2	
材 料	洞 板*8	—	SM41A	
個 数		—	1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円すい形」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-15図 セメント計量ホッパー構造図 (D1702)」による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

(10) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
固体 廃棄物 処理系	*3 廃液フィルタ逆洗水受タンク ～ 廃液フィルタ逆洗水ポンプ	1.03*1	65	60.5	3.9*2	SUS304TP	固体 廃棄物 処理系	変更なし				
				60.5	5.5*2	STPT42						
	*4 廃液フィルタ逆洗水ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42						変更なし
	*5 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42						変更なし
	床ドレンフィルタ逆洗水受タンク ～ 床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ	1.03*1	65	60.5	3.9*2	SUS304TP						変更なし
				60.5	5.5*2	STPT42						
	床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ ～ 床ドレンスラッジ貯蔵タンク	1.07*1	65	48.6	5.1*2	STPT42						変更なし
		1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42						

(続き)

変 更 前						変 更 後							
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	原子炉冷却材浄化系	*6 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ	1.02*6	66*6	60.5*6	3.9*2,*6	STPT42*6	変更なし					
		*6 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点	1.03*6	65*6	34.0*6	4.5*2,*6	STPT42*6	変更なし					
					48.6*6	5.1*2,*6	STPT42*6						
					60.5*6	5.5*2,*6	STPT42*6						
		*6 燃料プール冷却浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点 ～ 使用済粉末樹脂 貯蔵タンク入口管	1.03*6	65*6	60.5*6	5.5*2,*6	STPT42*6	変更なし					
		燃料プール冷却浄化系	*6 フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ	0.98*6	94*6	60.5*6	3.9*2,*6	SUS304TP*6	変更なし				
	60.5*6					5.5*2,*6	SUS304TP*6						
	*6 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点		1.03*6	65*6	34.0*6	4.5*2,*6	STPT42*6	変更なし					
					48.6*6	5.1*2,*6	STPT42*6						
					60.5*6	3.9*2,*6	SUS304TP*6						
					60.5*6	5.5*2,*6	SUS304TP*6						

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	*7 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし				
	使用済樹脂貯蔵タンク ～ 使用済樹脂ポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	*8 廃液スラッジ貯蔵タンク ～ 廃液スラッジポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	床ドレンスラッジ貯蔵タンク ～ 床ドレンスラッジポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	*9 使用済粉末樹脂貯蔵タンク ～ 使用済粉末樹脂ポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	*10 使用済樹脂ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 合流点 (次頁へ続く)	1.96*1	65	34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6	変更なし	変更なし			
				34.0	4.5*2	STPT42					
		1.03*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	(次頁へ続く)	撤去			
						固体廃棄物処理系 (次頁へ続く)					

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
固体廃棄物処理系	(前頁からの続き)	1.03*1	65	34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6	(前頁からの続き)	変更なし				
		—						1.03	65	60.5	5.5*2	STPT410
	*11 廃液スラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	1.81*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし					
		1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42						
	*12 床ドレンスラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	1.81*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし					
		1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42						
	*13 使用済粉末樹脂ポンプ ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管	1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし					
				34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6						
		—										1.03
						60.5	5.5*2	STPT410				

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	*14 濃縮廃液貯蔵タンク ～ 濃縮廃液ポンプ	100	89.1	4.0*2	SUS316LTP	固体廃棄物処理系	変更なし	1.03*1	89.1	4.0*2	SUS316LTP
		65	89.1	4.0*2	SUS316LTP						
		60.5	60.5	3.9*2	SUS316LTP						
	*15 濃縮廃液ポンプ ～ 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部	2.01*1	65	48.6	3.7*2				SUS316LTP	変更なし	
	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS316LTP	撤去					
濃縮廃液計量タンク ～ アウトドラムミキサー	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42	撤去					

注記 \*1：S I 単位に換算したもの。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A””B”吸込管（廃液フィルタ逆洗水受タンク”A””B”より廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A””B”まで）」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A””B”吐出管（廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A””B”より廃液スラッジ貯蔵タンク入口管まで）」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジ貯蔵タンク”A””B”入口管」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂貯蔵タンク”A””B”入口管」と記載。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジポンプ”A””B”吸込管（廃液スラッジ貯蔵タンク”A””B”より廃液スラッジポンプ”A””B”まで）」と記載。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂ポンプ吸込管（使用済粉末樹脂貯蔵タンク”A””B”より使用済粉末樹脂ポンプまで）」と記載。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂ポンプ吐出管（使用済樹脂ポンプより遠心分離機”A””B”まで）」と記載。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジポンプ”A””B”吐出管（廃液スラッジポンプ”A””B”より使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

\*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンスラッジポンプ吐出管（床ドレンスラッジポンプより使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

\*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂ポンプ吐出管（使用済粉末樹脂ポンプより使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

\*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C より濃縮廃液ポンプ A, B, C まで」と記載。

\*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵ポンプ A, B, C より濃縮廃液計量タンクまで」と記載。

- (14) 減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち（１）から（１３）までに掲げるもの以外の主要機器の名称，種類，容量又は処理能力，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

			変更前	変更後	
名 称			減容機	変更なし	
本 体	種 類	—	門型油圧プレス		
	処 理 能 力 <sup>*4</sup>	t/個	□ (10 <sup>*1</sup> )		
	主 要 寸 法	た て	mm		1190 <sup>*1, *2</sup>
		横	mm		1500 <sup>*1, *2</sup>
		高 さ	mm		1860 <sup>*1, *2</sup>
	材 料	ラ ム ロ ッ ド	—		S45C <sup>*5</sup>
		油 圧 シ リ ン ダ	—		STKM13C
個 数	—	1			
原 動 機	プ レ ス 用	種 類	—		誘導電動機 <sup>*3</sup>
		出 力	kW/個	1.5	
		個 数	—	1	
	換 気 用	種 類	—	誘導電動機 <sup>*3</sup>	
		出 力	kW/個	0.75	
		個 数	—	1	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「S45Cハードクロームメッキ」と記載。



			変更前	変更後	
名 称			遠心分離機	撤去	
本 体	種 類	—	水平ボウル型		
	容 量	m <sup>3</sup> /h/個	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">          </span> (4.6 <sup>*1</sup> )		
	主 要 寸 法	た て	mm		1375 <sup>*1, *2</sup>
		横	mm		2876.3 <sup>*1, *2</sup>
		高 さ	mm		1385 <sup>*1, *2</sup>
	材 料	ケ ー ス	—		SUS304
	個 数	—	2		
原 動 機	種 類	—	誘導電動機 <sup>*3</sup>		
	出 力	kW/個	22		
	個 数	—	2		

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

\*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-19図 遠心分離機構造図」による。

			変更前	変更後	
名 称			スラッジコンベヤー	撤去	
本 体	種 類	—	ベルトドライブ型		
	容 量*1	m <sup>3</sup> /h/個	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px;"></span> (12*2)		
	主 要 寸 法	た て	mm		900*2, *3
		横*4	mm		5295*2
		高 さ	mm		1000*2, *3
	材 料	ケ ー ス	—		SUS304
	個 数	—	1*5		
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機*6		
	出 力	kW/個	1.5		
	個 数	—	1		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「輸送量」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 スラッジコンベヤー構造図」による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。

\*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			アウトドラムミキサー		
本 体	種 類	—	たて置円筒形*1		
	容 量*2	m <sup>3</sup> /個	[ ] (0.5*3)		
	主 要 寸 法	た て	mm	1450*3, *4	
		横	mm	2100*3, *4	
		高 さ*5	mm	1955*3	
	材 料	本 体	—	SS34又はSS41相当	
			[ ]		
個 数		—	1		
原 動 機	ミ キ シ ン グ ス タ ー 用	種 類	—	減速機付誘導電動機*6	
		出 力	kW/個	13*7	
		個 数	—	1	
	オ イ ル ポ ン プ 用	種 類	—	誘導電動機*8	
		出 力	kW/個	2*7	
		個 数	—	1	
	集 中 給 油 用	種 類	—	減速機付誘導電動機*6	
		出 力	kW/個	0.25*7	
		個 数	—	2	

撤去

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理容量」と記載。  
 \*3：公称値を示す。  
 \*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 アウトドラムミキサー構造図（その1）」による。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。  
 \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

\*7：S I 単位に換算したもの。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			セメントコンベヤー	撤去	
本 体	種 類	—	スクリュードライブ型		
	容 量 <sup>*1</sup>	m <sup>3</sup> /h/個	<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span> (10 <sup>*2</sup> )		
	主 要 寸 法	外 径 <sup>*3</sup>	mm		267.4 <sup>*2, *4</sup>
		全 長	mm		6159 <sup>*2</sup>
	材 料	ス ク リ ュ ー	—		SS41
		ケ ー ス	—		SGP
	個 数	—	1		
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機 <sup>*5</sup>		
	出 力	kW/個	1.5		
	個 数	—	1		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「輸送量」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、内径である「254.2」と記載。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 セメントコンベヤー構造図」による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 セメントコンベヤー構造図」による。

			変更前	変更後	
名 称			ドラムコンベヤー		
本 体	種 類	—	オーバーヘッド型 パワーエンドフリータイプ		
	容量（吊下げ能力）	kg/キャリア	<input type="text"/>	(500* <sup>1</sup> )	
	主要寸法 全 長* <sup>2</sup>	m	145* <sup>1</sup>		
	材 料	コンベヤー レール	—	SS41	
	個 数	—	1		
原 動 機	コン ベ ヤ ー	種 類	—	誘導電動機* <sup>3</sup>	
		出 力	kW/個	2.2	
		個 数	—	1	
	キ ャ ッ ピ ン グ 装 置 ( ト ラ バ ル )	種 類	—	誘導電動機* <sup>3</sup>	
		出 力	kW/個	0.4	
		個 数	—	1	
	機 キ ャ ッ ピ ン グ 装 置 ( フ ト )	種 類	—	誘導電動機* <sup>3</sup>	
		出 力	kW/個	0.4	
		個 数	—	1	

撤去

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長（パワーエンドフリーライン）」と記載。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

\*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月11日付け建建発第144号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 ドラムコンベヤー構造図」による。

			変更前	変更後	
名 称			ミキサー洗浄タンク A	撤去	
本 体	種 類	—	たて置並列円筒形*1		
	容 量	m <sup>3</sup> /個	<input type="text"/> (0.8*2)		
	主 要 寸 法	たて (内寸法) *3	mm		900*2
		横 (内寸法) *4	mm		1800*2
		本 体 板 厚 さ*5	mm		<input type="text"/> (6*2)
		平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm		6*2, *6
		高 さ	mm		900*2
	材 料	本 体	—		SUS304
個 数	—	1			
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機*7		
	出 力	kW/個	0.4		
	個 数	—	1		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「並列円筒形（四脚支持）」と記載。

\*2：公称値を示す。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「巾」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (1/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、廃棄物貯蔵設備 液体又は固体	固体廃棄物貯蔵系	ポンプ	使用済粉末樹脂ポンプ	B	Non	—	—	変更なし	—	—	—	—
			使用済粉末樹脂デカントポンプ	B	Non	—	—	変更なし	—	—	—	—
	容器	使用済樹脂貯蔵タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
		クラッドスラリタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
		使用済粉末樹脂貯蔵タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (2/30)

		変 更 前					変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	気体廃棄物処理系	熱交換器	排ガス復水器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			排ガス前置除湿器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			再生ガス加熱器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
		容器	排ガス再結合器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
		ろ過装置	排ガス気水分離器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			排ガス前置フィルタ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			気水分離器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			排ガス後置除湿器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			排ガスメッシュフィルタ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			排ガス活性炭ベッド	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			再生ガスメッシュフィルタ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			再生ガス気水分離器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			再生ガス油分離器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			排ガスフィルタ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
		主配管	排ガス空気抽出器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
排ガス消音器	B-1		クラス3			-*2			-	-		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (3/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	一	主配管	再生ガス消音器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			蒸気式空気抽出器出口弁 ～ 排ガス予熱器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス予熱器 ～ 排ガス再結合器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス再結合器 ～ 排ガス復水器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス復水器 ～ 排ガス気水分離器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス気水分離器 ～ 排ガス前置フィルタ (排ガス減衰管を除く)	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス減衰管	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス前置フィルタ ～ 排ガス後置フィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			排ガス後置フィルタ ～ 排気筒	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (4/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	気体廃棄物処理系	主配管	排ガス後置除湿器 ～ 再生ガスブロウ	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			再生ガスブロウ ～ 排ガス後置除湿器	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (5/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
NT2 補① R2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	ポンプ	廃棄物処理棟 機器ドレンサンプポンプ	B-1	Non	—	—	変更なし	—	—	
				廃液フィルタ保持ポンプ	B	Non	—	—	撤去	—	—	
				プリコートポンプ	C	Non	—	—	撤去	—	—	
			容器	廃液収集タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				サージタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				凝集装置供給タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				凝縮水サンプルタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				廃棄物処理建屋 機器ドレンサンプタンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				機器ドレン処理水タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				プリコートタンク	C	クラス3	—	—	撤去	—	—	
				—	—	—	—	格納容器機器ドレンサンプ	S	クラス3	—	—
			ろ過装置	電磁ろ過器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				超ろ過器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				廃液フィルタ	B	クラス3	—	—	撤去	—	—	
			主要弁	G13-F132	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
				G13-F133	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	
			主配管	格納容器機器ドレンサンプ ～ 格納容器機器ドレンサンプ 出口配管分岐点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				格納容器機器ドレンサンプ 出口配管分岐点 ～ 格納容器機器ドレンサンプスリット	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				格納容器機器ドレンサンプスリット ～ 格納容器機器ドレンサンプスリット	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				格納容器機器ドレンサンプスリット ～ 格納容器機器ドレン配管分岐点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (6/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	格納容器機器ドレン配管分岐点 ～ 原子炉格納容器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				原子炉格納容器 ～ 弁G13-F132	S	クラス2	-	-	変更なし	-	-	-
				弁G13-F132 ～ 原子炉棟機器ドレンサンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				原子炉棟機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				タービン建屋 機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				廃棄物処理棟 機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				廃液収集タンク ～ 廃液収集ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				廃液収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	撤去	-	-
				サージタンクA ～ サージポンプA	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				サージポンプA ～ 廃液収集ポンプ吐出管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				サージタンクB ～ サージポンプB	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				サージポンプB ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (7/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	廃液脱塩器入口管 ～ 廃液脱塩器	B-1	クラス3		-	撤去		-		-
								変更なし		-		-
			廃液脱塩器入口管合流点 ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3		-	撤去		-		-
								変更なし		-		-
			廃液脱塩器 ～ 廃液サンプルタンク	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			廃液サンプルタンク ～ 廃液サンプルポンプ	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			廃液サンプルポンプ ～ 放射性廃棄物処理系配管取合点 (補給水系)	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			凝縮水収集タンク ～ 凝縮水収集ポンプ	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			凝縮水収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			凝集装置供給タンク ～ 凝集装置供給ポンプ	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			凝集装置供給ポンプ ～ 凝集沈澱装置	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
凝集沈澱装置 ～ 廃液収集タンク	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-			

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (8/30)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	廃液収集ポンプ吐出管合流点 ～ 電磁ろ過器供給タンク入口管	B-1	クラス3			撤去			-	-
				電磁ろ過器供給タンク入口管分岐点 ～ 廃液フィルタB入口管	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプA ～ 電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプB ～ 廃棄物処理建屋機器ドレン サンプポンプA出口管合流点	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				弁NR24-F007A ～ 電磁ろ過器供給タンク	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				弁NR24-F007B ～ 使用済樹脂貯蔵タンクB デカント水出口管合流点	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				電磁ろ過器供給タンク ～ 機器ドレン樹脂分離器A	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				機器ドレン樹脂分離器A ～ 電磁ろ過器A	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				電磁ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ 機器ドレン樹脂分離器B	B-1	クラス3			変更なし			-	-
				機器ドレン樹脂分離器B ～ 電磁ろ過器B	B-1	クラス3			変更なし			-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (9/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	電磁ろ過器A ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				電磁ろ過器B ～ 電磁ろ過器A出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給タンク ～ 超ろ過器A	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給ポンプA入口管分岐点 ～ 超ろ過器B	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給ポンプA入口管分岐点 ～ 超ろ過器C	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給ポンプA入口管分岐点 ～ 超ろ過器D	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給ポンプD入口管分岐点 ～ 超ろ過器E	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給ポンプE入口管分岐点 ～ 超ろ過器F	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器A ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器B ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (10/30)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	超ろ過器C ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	
			超ろ過器D ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器E ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器F ～ 超ろ過器供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器A ～ 超ろ過器出口集合管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器B ～ 超ろ過器出口集合管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器C ～ 超ろ過器出口集合管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器D ～ 超ろ過器出口集合管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器E ～ 超ろ過器出口集合管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器F ～ 超ろ過器出口集合管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			超ろ過器出口集合管 ～ 機器ドレン処理水タンクA	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			弁NR21-F021 ～ 機器ドレン処理水タンクB	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (11/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	機器ドレン処理系	主配管	機器ドレン処理水タンクA ～ 廃液脱塩器入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				廃液フィルタB出口管 ～ 機器ドレン処理水ポンプ 出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	撤去	-	-	-
				機器ドレン処理水タンクB ～ 機器ドレン処理水タンクA 出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				機器ドレン樹脂分離器A ～ 使用済樹脂貯蔵タンクB	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				機器ドレン樹脂分離器B ～ 機器ドレン樹脂分離器A 出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				使用済樹脂貯蔵タンクB 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンクC (機器ドレン樹脂分離器側)	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				電磁ろ過器A入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクA	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				電磁ろ過器B入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクA 入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				クラッドスラリタンクA 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクB (電磁ろ過器側)	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-
				超ろ過器供給タンク出口管分岐点 ～ クラッドスラリタンクA 入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (12/30)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	超ろ過器供給ポンプA入口管分岐点 ～ 電磁ろ過器A入口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	
			電磁ろ過器循環供給ポンプ 出口管分岐点 ～ 電磁ろ過器B入口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリタンクA ～ クラッドスラリ上澄水受タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリタンクB ～ クラッドスラリタンクA 出口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ上澄水受タンク ～ クラッドスラリ濃縮器加熱器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器加熱器 ～ クラッドスラリ濃縮器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器デミスタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器デミスタ ～ クラッドスラリ濃縮器復水器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器復水器 ～ 機器ドレン処理水タンクA 入口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器循環 ポンプ入口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (13/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 機器ドレン処理系	主配管	クラッドスラリ濃縮器循環ポンプ入口管分岐点～クラッドスラリタンクA	B-1	クラス3	-		変更なし	-		-	
			クラッドスラリタンクA入口管分岐点～クラッドスラリタンクB (クラッドスラリ濃縮器側)	B-1	クラス3	-		変更なし	-		-	

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (14/30)

		変 更 前					変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1			
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	ポンプ	廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ	B-1	Non	-		変更なし				-	-	
			床ドレンフィルタ保持ポンプ	B	Non	-		撤去				-	-	
		容器	床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	-		変更なし				-	-	
			床ドレンサンプルタンク	B-1	クラス3	-		変更なし				-	-	
		貯蔵槽	-					格納容器床ドレンサンプ	S	-	-	-		
		ろ過装置	床ドレンフィルタ	B	クラス3	-		撤去				-	-	
		主要弁	G13-F129	S	クラス2	-		変更なし				-	-	
			G13-F130	S	クラス2	-		変更なし				-	-	
		主配管	-					格納容器床ドレンサンプ導入管	B-1	クラス3	-	-		
			格納容器床ドレンサンプスリット～格納容器床ドレン配管分岐点		B-1	クラス3	-		変更なし				-	-
			格納容器床ドレン配管分岐点～原子炉格納容器		B-1	クラス3	-		変更なし				-	-
			原子炉格納容器～弁G13-F129		S	クラス2	-		変更なし				-	-
			弁G13-F129～原子炉棟床ドレンサンプ		B-1	クラス3	-		変更なし				-	-
			原子炉棟床ドレンサンプポンプ～床ドレン収集タンク		B-1	クラス3	-		変更なし				-	-
			タービン建屋床ドレンサンプポンプ～床ドレン収集タンク		B-1	クラス3	-		変更なし				-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (15/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 床ドレン処理系	主配管	廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ～ 床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			床ドレン収集タンク～ 床ドレン収集ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			床ドレン収集ポンプ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			床ドレン収集ポンプ吐出管分岐点～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	-	-	撤去	-	-	-	-
			床ドレン収集ポンプ吐出管合流点～ 床ドレンサンプルタンク	B-1	クラス3	-	-	撤去	-	-	-	-
			床ドレンサンプルタンク～ 床ドレンサンプルポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			床ドレンサンプルポンプ～ 廃液中和タンク入口管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			床ドレンサンプルポンプ出口分岐点 (床ドレン収集タンク戻り)～ 床ドレン収集タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプA～ 床ドレン収集タンク入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプB～ 廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプA出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (16/30)

		変 更 前					変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 再生廃液処理系	熱交換器	廃液濃縮器加熱器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	
		容器	廃液中和タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
		ろ過装置	廃液濃縮器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
		主配管	廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプポンプA～廃液中和タンク入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプポンプB～廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプポンプA出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃棄物処理棟高電導度ドレンサンプポンプ～廃液中和タンク入口管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃液中和タンク入口管～廃液中和タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃液中和タンク～廃液濃縮器供給ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			廃液濃縮器供給ポンプ～弁 G13-F1612A, B	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			弁 G13-F1612A～廃液濃縮器循環ポンプA吸込管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			弁 G13-F1612B～廃液濃縮器循環ポンプB吸込管	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (17/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 再生廃液処理系	主配管	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器復水器 A	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器復水器 B	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器復水器 A ～ 凝縮水収集タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器復水器 B ～ 凝縮水収集タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—
			濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	B-1	クラス 3	—	—	変更なし	—	—	—	—



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (18/30)

		変 更 前					変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	熱交換器	蒸気加熱器	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			タンクベント冷却器	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
		ポンプ	廃液中和スラッジ受ポンプ	B	Non	-		撤去	-	-	-	-
			ミキサー洗浄ポンプ	B	Non	-		撤去	-	-	-	-
		容器	廃液フィルタ逆洗水受タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			床ドレンフィルタ逆洗水受タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器逆洗水受タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			廃液スラッジ貯蔵タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			床ドレンスラッジ貯蔵タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			濃縮廃液貯蔵タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			使用済樹脂貯蔵タンク	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-	-	-
			廃液中和スラッジ受タンク	B	クラス3	-		撤去	-	-	-	-
			濃縮廃液計量タンク	B	クラス3	-		撤去	-	-	-	-
			ミキサー洗浄タンク B	B	クラス3	-		撤去	-	-	-	-
バッチタンク	B	クラス3	-		撤去	-	-	-	-			

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (19/30)

		変 更 前					変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	容器	スラッジ計量ホッパー	B	クラス3	—	—	撤去	—	—		
			チャージホッパー	B	クラス3	—	—	撤去	—	—		
			苛性溶液タンク	C	クラス3	—	—	撤去	—	—		
			セメントサイロ	C	クラス3	—	—	撤去	—	—		
			セメント計量ホッパー	C	クラス3	—	—	撤去	—	—		
		主配管	廃液フィルタ逆洗水受タンク ～ 廃液フィルタ逆洗水ポンプ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			廃液フィルタ逆洗水ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			床ドレンフィルタ逆洗水受タンク ～ 床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ ～ 床ドレンスラッジ貯蔵タンク	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水受タンク ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系フィルタ脱塩器 逆洗水移送配管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			燃料プール冷却浄化系フィルタ脱塩器 逆洗水移送配管合流点 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (20/30)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	主配管	フィルタ脱塩器逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ ～ 原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器 逆洗水移送配管合流点	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			使用済樹脂貯蔵タンク ～ 使用済樹脂ポンプ	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			廃液スラッジ貯蔵タンク ～ 廃液スラッジポンプ	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			床ドレンスラッジ貯蔵タンク ～ 床ドレンスラッジポンプ	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			使用済粉末樹脂貯蔵タンク ～ 使用済粉末樹脂ポンプ	B-1	クラス3	—		変更なし	—	—			
			使用済樹脂ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 合流点	B-1	クラス3	—		変更なし	撤去	—	—		
			廃液スラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3	—		変更なし		—	—		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (21/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	主配管	床ドレンスラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			使用済粉末樹脂ポンプ ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管	B-1	クラス3			撤去			-	-
			濃縮廃液貯蔵タンク ～ 濃縮廃液ポンプ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			濃縮廃液ポンプ ～ 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			濃縮廃液ポンプ ～ 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部	B-1	クラス3			撤去			-	-
			濃縮廃液計量タンク ～ アウトドラムミキサー	B-1	クラス3			撤去			-	-
		減容・固化設備に係る焼却装置、熔融装置、圧縮装置、アスファルト固化装置、セメント固化装置、ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち(1)から(13)までに掲げるもの以外の主要機器	減容機	B-1	-			変更なし			-	-
			遠心分離機	B	-			撤去			-	-
			スラッジコンベヤー	B	-			撤去			-	-
			アウトドラムミキサー	B	-			撤去			-	-
			セメントコンベヤー	C	-			撤去			-	-
			ドラムコンベヤー	C	-			撤去			-	-
			ミキサー洗浄タンクA	B	-			撤去			-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (22/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系 使用済樹脂移送系	主配管	使用済樹脂貯蔵タンク 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B	B-1	クラス 3	—		変更なし	—	—		
			使用済樹脂貯蔵タンク B 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク C	B-1	クラス 3	—		変更なし	—	—		
			使用済樹脂貯蔵タンク B ～ 弁 NR24-F007A	B-1	クラス 3	—		変更なし	—	—		
			使用済樹脂貯蔵タンク C ～ 弁 NR24-F007B	B-1	クラス 3	—		変更なし	—	—		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (23/30)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	濃縮廃液減容固化系 主配管	濃縮廃液ポンプ出口管分岐部 ～ 濃縮廃液受タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	
			濃縮廃液受タンク ～ 減容固化系移送ポンプA	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系移送ポンプA ～ 減容固化系供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			濃縮廃液受タンク出口管分岐点 ～ 減容固化系移送ポンプB	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系移送ポンプB ～ 減容固化系移送ポンプA 出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系供給タンク ～ 減容固化系乾燥機	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系供給タンク出口管分岐点 ～ 減容固化系循環ポンプA	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系循環ポンプA ～ 減容固化系供給タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系循環ポンプA 入口管分岐点 ～ 減容固化系循環ポンプB	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系循環ポンプB ～ 減容固化系循環ポンプA 出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系乾燥機 ～ 減容固化系ミストセパレータ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-
			減容固化系ミストセパレータ ～ 減容固化系デミスタ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (24/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系 濃縮廃液減容固化系	主配管	減容固化系デミスタ ～ 減容固化系乾燥機復水器	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			減容固化系乾燥機復水器 ～ 減容固化系乾燥機排気ブロウ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			減容固化系乾燥機復水器 ～ 減容固化系ミストセパレータ	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			減容固化系ミストセパレータ ～ 減容固化系溶解タンク入口集合管	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			減容固化系溶解タンク入口集合管 ～ 減容固化系溶解タンク	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			減容固化系溶解タンク ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ 出口管合流点	B-1	クラス3			変更なし			-	-
			減容固化系乾燥機 ～ 減容固化系水分計ホッパ	B-1	クラス3			変更なし			-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (25/30)

		変更前				変更後							
設備区分	系統名	機器区分	名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	濃縮廃液減容固化系 主配管	減容固化系水分計ホッパ ～ 弁 NR23-F018	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	
			弁 NR23-F018 ～ 減容固化系造粒機	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系造粒機 ～ 減容固化系トロンメル	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系トロンメル ～ 減容固化系ペレットホッパ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系ペレットホッパ ～ 減容固化系ペレット充填装置	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系造粒機 ～ 減容固化系粒子フィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系ペレットホッパ ～ 減容固化系粒子フィルタ 入口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系トロンメル ～ 減容固化系ペレットホッパ 出口管合流点	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系粒子フィルタ ～ 減容固化系高性能粒子フィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			減容固化系高性能粒子フィルタ ～ 減容固化系粒子プロワ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (26/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	濃縮廃液減容固化系 減容・固化設備に係る焼却装置、溶融装置、圧縮装置、アスファルト固化装置、セメント固化装置、ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち(1)から(13)までに掲げるもの以外の主要機器	減容固化系乾燥機	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-
			減容固化系ミストセパレーター	B-1	クラス3		-	変更なし		-		-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (27/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	容器	廃油タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
		主配管	廃油タンク ～ 廃油バーナ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (28/30)

		変 更 前				変 更 後							
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	雑固体減容処理設備 主配管	高周波溶融炉 ～ 溶融炉 2次燃焼器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	
			溶融炉 2次燃焼器燃焼室 ～ 溶融炉 2次燃焼器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			溶融炉 2次燃焼器 ～ 溶融炉排ガス冷却器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			溶融炉排ガス冷却器 ～ 空気混合部	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			空気混合部 ～ 溶融炉セラミックフィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—
			溶融炉セラミックフィルタ ～ 溶融炉排ガスフィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	—	—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (29/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	サイトバンカプール水浄化系 主配管	ろ過装置	プール水脱塩器	B-1	クラス3	-	変更なし			-	-
			サイトバンカプール ～ スキマサージタンク	B-1	クラス3	-	変更なし			-	-	
			スキマサージタンク ～ プール水浄化フィルタ	B-1	クラス3	-	-	-	-	-	-	
			スキマサージタンク出口管分岐点 ～ プール水浄化ポンプA出口管合流点	B-1	クラス3	-	変更なし			-	-	
			プール水浄化フィルタ ～ サイトバンカプール	B-1	クラス3	-	変更なし			-	-	
			プール水浄化フィルタ出口管分岐点 ～ プール水脱塩器	B-1	クラス3	-	変更なし			-	-	
			プール水脱塩器 ～ プール水浄化フィルタ出口管合流点	B-1	クラス3	-	変更なし			-	-	

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (30/30)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	その他	排気筒	主排気筒	C-1	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			非常用ガス処理系排気筒	S	-	-	-	変更なし	-	-	-	-

注記 \*1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

\*2：当該配管については、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。